

「あなたの毅然とした態度で覚悟が決まった。本当にありがとう」

7度の手術を乗り越えたHさん。ずっと病気とは無縁の生活だったHさんに胃がんが見つかったのは11年前のことでした。どう話せばいいかわからないまま家に着き、「がんが見つかった。来週手術だよ」と大きな声で言ったら、明るい表情で笑いながら「ああ、そう」と一言だけ返ってきた。それがどれだけ元気づけられたかわからないと言います。

「もし悲観的な言葉が返ってきたら、暗い気持ちになっていたことでしょう。いつもそうやって明るく振る舞ってくれるので、逆に元気をもらっています。」

その後も次々と見つかるがん。主治医から家族で説明を受け、リスクの話なども聞いて暗い気持ちになっていた時のこと。家族の中にはすべてを手術で切らなくてもいいとか、先進医療もあるなどという話も出ましたが、妻は「ここに紹介されてきた以上、もうまな板の上の鯉なんだから、任せましょう」と毅然と言った。

「その一言で覚悟が決まりました。」

13時間にも及ぶ手術の次の日、妻が病室を訪ねてきて、お互い話すことが見つからなかった時、ちょうど結婚して30年目の年だったこともあ

り、ふと結婚式の記憶がよみがえりました。それで、「健やかなる時も、病める時もお互い労わり、愛し合うことを誓いますか？」という言葉に、二人順番に大きな声で「誓います」って言ったよなあ、と口から出しました。

すると、妻は病室中に響く大きな声で高笑いをして、

「誓っちゃったもの、しょうがないわねえ」

という答えが返ってきた。それがきっかけで病室中ほかの患者さんにもこやかな声になって笑い声が響いたのを思い出したと言います。

「ああいう明るい振る舞い、そしていつでも前向きに考えてくれる振る舞いが、どれだけ辛い時の救いになっているか分かりません。」

「いつかちゃんとお礼を言おうと思っていましたが、いつも茶化して面と向かってはちゃんと言えないので、この場を借りて、今まで 11 年にわたって助けてもらっていること、支えてもらっていることに改めてお礼を言います。いつもありがとう。」